

Waste Expo2009

北米最大の 産廃展訪問

ウエスギ



産業廃棄物展「Waste Expo2009」の会場

【名古屋】総合リサイクル企業、ウエスギ（本社＝三重県四日市市天力須賀新町1-32）の上杉圭司社長は、6月8～11日に米国ネバダ州ラスベガス市で開催された北米最大の産業廃棄物展示会「Waste Expo2009」を訪れた。

活況 政策が後押し



上杉社長

関連会社「ウエスギUSA」を持つ。上杉社長は「全米最大の産廃イベント。オバマ政権がグリーンテイル政策を打ち出したこともあり、不況の

「Waste Expo2009」は、固形廃棄物やリサイクルに関する展示会で、全米各地から500社以上の企業が参加し、世界各地から多数の来場者が押し掛ける。毎年場所を変えて開催する。来年はジョージア州アトランタ市で開催が予定されている。

ウエスギは1921年創業の大手産業廃棄物処理業者。三重県を拠点に産廃の中間処理のほか被覆電線のナゲット加工、鉄・非鉄金属リサイクルなど幅広

く環境ビジネスを展開する。また、米国ワシントン州シアトル市に中でも非常に熱気があつた」と感想を語る。米国の産廃処理の現

状態に関しては「アメリカ力は国土が広く最終処分場の確保に困らないことや、高い人件費などが影響し選別などが不十分で、日本と比べればリサイクルのレベルが低い」との認識を示す。

「アメリカの産業廃棄物リサイクルは、オバマ政権の後押しもあり間違いなく伸びていく。現地の産廃企業も『これからますます忙しくなる』と言っており、日本のリサイクル技術を生かすチャンスが出てくる」と米国市場の発展に期待を寄せ